

「個の歴史」の重み

年 組 番 名前

現在の中国東北部には太平洋戦争の敗戦まで、日本が実質的に支配していた「満州国」がありました。同国の建国大学で学んだ時田純さんは戦後、日本で社会福祉を追求してきました。時田さんの「個の歴史」について、記事を読みましょう。

- ①時田さんが、社会福祉法人を設立した時に掲げた運営理念は、何ですか。また、さまざまな事業を展開した原点には、どんな戦争体験があったのですか。

理念—

原点—

- ②「建国大は特殊な空間だった」とは、どんな様子から言えるのですか。記事と一橋大大学院の佐藤仁史教授の話からまとめましょう。

- ③建国大の様子で、時田さんが特に印象に残るのは、どんなことですか。

- ④戦後、建国大の元学生は、中国やソ連では何とみなされ、どんな扱いを受けましたか。また、その時、日本と中国・ソ連は、どんな関係にあったか調べてみましょう。

元学生—

日本と中国・ソ連との関係—

- ⑤佐藤教授が、時田さんの語りを「重要な証言」とみるのは、なぜですか。

誰もが国家や時代の流れに翻弄されながら「個の歴史」を紡いでいく。あの戦争をくぐり抜けた人たちは戦後、その体験をどう受け止めて生きてきたのだろうか。そして現代に暮らす私たちは、個の歴史をどう受け継いでいくのか。今年日本が中国東北部を実質支配した「満州国」の建国から90年。その最高学府・建国大学に松本市から入学した時田純さん(94)＝小田原市＝は、敗戦とともに「国家」が消滅し、命懸けで引き揚げてきた。その経験と胸に戦後、理想の社会福祉を追求。半生をたどり考えたい。

(稲玉千瑛)

「人は人として存在するだけで尊い」
時田さんが45年前、小田原市で社会福祉法人を設立した時に掲げた運営理念だ。特別養護老人ホーム「潤生園」の開設に始まり、現在は40もの事業所を展開する高齢者総合福祉施設などの会長を務める。

嚙下障害があっても最期まで口から安全に食べられるよう、「介護食」を1980年代に日本で初めて開発し、日本栄養改善学会の賞を受けた。地域の高齢者への昼夜の配食、認知症の人の介護の研究など、国の制度に先駆けて進めた事業も多い。それらの原点には「生命と平和の尊さを骨身に刻んだ」戦争体験がある。

時田さんが満州(現中国東北部)に渡ったのは44年12月、松本市立中(現松本美須ヶ丘高)4年生の途中だった。県知事推薦で首都・新京にある建国大に進学。日本、中国、朝鮮、モン



日本の動きと時田さんの歩み

年	国内外の動き	時田さんの歩み
1927年9月(昭和2年)		医師の父と看護師の母のもと東京に生まれる。その後小田原へ
31年9月	満州事変始まる	
32年3月	満州国建国。首都を新京(長春)に定める	
37年7月	日中戦争始まる	
38年5月	満州建国大、新京に設立	
40年ころ		松本の叔父の家へ
41年春		旧制松本市立中へ進学
41年12月	太平洋戦争始まる	
44年12月ころ		満州へ渡る 満州建国大に入学
45年8月9日 8月15日	ソ連軍が満州などへ侵攻 日本敗戦	
47年3月		日本に引き揚げる
49年		小田原市職員になる。生活保護や国保創設、市立病院開設に携わる
63年		小田原市議に当選(3期12年)
72年	日中国交回復	
77年		社会福祉法人を設立し、理事長に就任

「個の歴史」の重み 継承するには

満州建国大の学び - 敗戦 - 社会福祉を追求 時田純さんと考える



設立から45年になる社会福祉法人「小田原福祉会」で会長を務める時田さん＝小田原市

ゴル人、ロシア革命を逃れた白系ロシア人の学生とまぎって寮生活を送り、語学中心の学科や軍事、農事訓練などに励んだ。満州国が掲げる「民族協和」「王道楽土」を体現しようとした建国大。例えば、すべての学生が、米とコーリアンの混食を食べていた。時田さんも「口に合わなくて困りました」と苦笑いする。

しかし大学の外に出ると、当時の満州国の食糧配給は、日本人には白米、中国人はコーリヤンなどと差別があった。理念

と現実が乖離した満州国において、建国大は特殊な空間だった。時田さんは特に「自由な言論」のある学びが、印象に残る。座談会が特徴的だった。忌憚のない意見を言える場で、日本人学生以外から日本の統治や政策への批判も飛んだ。時田さんはここで日本の敗色が濃いと知る。爆弾を抱えてグライダーで敵機に突っ込む訓練を重ねた。

45年8月9日、ソ連軍の侵攻が始まる。日本人学生が召集され、時田さんもソ連軍の戦車を

満州建国大 日本の傀儡(かいらい)国家・満州国が1938～45年に設けた大学。「建国大学と民族協和」(宮沢恵理子著)によると、6年制で年150人程度が入学した。約半数が日本人で、他に中国、朝鮮、モンゴル、ロシア人が選抜され、長野県内からは年1、2人程度だったとみられる。学生は30人ほどの「塾」に分かれ共同生活をした。日本国内のような研究や思想の規制を受けず、社会主義者を含め多様な教授陣や若手研究者がいた。

戦中・戦後 個々が語る貴重さ 一橋大大学院・佐藤仁史教授

は、特に敗戦直前の時期は、制海権をほぼ米國に奪われ、満州で発行された新聞などが日本国内に届きにくかったために研究で分かっていたことも多いとし、時田さんの語りも「重要な証言」とみる。

また、戦後80年近くがたち、「引き揚げの体験が記憶から歴史に変わろうとしている」今、当事者の日記などが遺族



敗戦時の1945年8月時点で、満州には開拓移民や行政・民間企業の職員など計約155万人の日本人がいた。敗戦後の逃避行や飢えと寒さで18万人以上が死亡したと推定される。

満州体験の聞き取りに取り組み一橋大大学院の佐藤仁史教授(50)＝中国近現代史＝

によって表に出され始めているものの、公開されずに破棄される例は少なくないという。惧。(個人が語る)オーラルヒストリーの貴重さを改めて指摘する。

ただ、それらをどう記録していくのか。佐藤教授は、満州で日本による侵略と民族差別が行われていた実態と、建国大などの限定された範囲の中で「民族協和」を真剣に目指した人たちがいた事実、そうした面を記した上で「満州に」という齟齬があったかを認識し、語りを読み解く必要がある」とする。

日本による植民地支配を検証する意味でも、戦後まで視野に入れたオーラルヒストリーに注目。「語り手の主観で組み立てている世界を丁寧に理解すること。戦後の経験や思考、客観的な(歴史)事実をどう認識し、葛藤したかの過程も重要だ」と話している。

落とすための壕を掘りながら「死を覚悟した」。

敗戦により満州国は消滅し、建国大は閉学。街ではソ連兵の略奪が横行した。時田さんが身を寄せた同大の教員官舎にも連日「ダワイ(出せ)」と押しかけ、時計などを奪っていった。周囲では抵抗した男性が殺され、隠れていた女性が見つかり強姦された。

情報を集め、中国人の元建国大生の友の仲介でソ連兵へ賄賂を渡し貨物列車に乗り込んで大連へ。屋台商売で生計をつなぎ47年に引き揚げた。「国がなくなり、安住の場、人間の生きるベースが崩れることが、どれほど恐ろしいことか」と振り返る。帰ってきた母国も、貧しさの中にあった。小田原市で待つ母と妹は、空襲で焼け出されていた。市職員に採用され生活保護の担当になると、受給者たちは肩身が狭そうに行列に並んでいた。日本国憲法は人権を規定しているのに、実態は「お恵み政策」に思えた。福祉・医療行政を担当し、市議を経て社会福祉の事業者になる。ドイツや北欧にも視察に行った。「新しい日本の社会福祉をつくっていく歴史だったと思う」

法人では10年ほど前から韓国

深い結び付きの背景には、それぞれの母国で元建国大生が置かれた複雑な立場もある。中国やソ連では、多くの元学生が日本の帝国主義の協力者などみなされ、逮捕されたり激しい迫害を受けたりした。冷戦下、朝鮮半島は南北に分断された。消息の分からない元学生も多い。

満州をめぐる「みんな何から人生自体が大きく影響を受けている」と時田さん。自身も「情報が把握できていれば行かなかった」と思う。

ただ、この体験が結果として「福祉への基本の考え方に結実している」。「安心して一生を暮らせる国でなくてはならない。まだやるべきことはいっぱいある」と語った。

「個の歴史」の重み

解答例

年 組 番 名前

現在の中国東北部には太平洋戦争の敗戦まで、日本が実質的に支配していた「満州国」がありました。同国の建国大学で学んだ時田純さんは戦後、日本で社会福祉を追求してきました。時田さんの「個の歴史」について、記事を読みましょう。

- ①時田さんが、社会福祉法人を設立した時に掲げた運営理念は、何ですか。また、さまざまな事業を展開した原点には、どんな戦争体験があったのですか。

理念— 人は人として存在するだけで尊い

原点— 生命と平和の尊さを骨身に刻んだ戦争体験

- ②「建国大は特殊な空間だった」とは、どんな様子から言えるのですか。記事と一橋大大学院の佐藤仁史教授の話からまとめましょう。

【解答】 満州国は「民族協和」「王道楽土」を掲げたが、現実には日本による侵略と民族差別が行われていた。食糧配給では、日本人は白米、中国人はコーリャンなどと差別があった

建国大には「民族協和」を真剣に目指した人たちがいた。すべての学生が、米とコーリャンの混食を食べていた

- ③建国大の様子で、時田さんが特に印象に残るのは、どんなことですか。

【解答】 「自由な言論」のある学びがあったこと

- ④戦後、建国大の元学生は、中国やソ連では何とみなされ、どんな扱いを受けましたか。また、その時、日本と中国・ソ連は、どんな関係にあったか調べてみましょう。

元学生— 日本の帝国主義の協力者などとみなされ、逮捕されたり激しい迫害を受けたりした

日本と中国・ソ連との関係— 〔例〕日本は資本主義陣営に属し、ソ連・中国は社会主義陣営で、両陣営は冷戦下で激しく対立していた

- ⑤佐藤教授が、時田さんの語りを「重要な証言」とみるのは、なぜですか。

【解答】 敗戦直前の時期は、制海権をほぼ米国に奪われ、満州で発行された新聞などが日本国内に届きにくかったために研究で分かっていないことも多いから